田村市除染マニュアル
（第 １ 版）

このマニュアルは、通学路などの身近な生活空間において放射性物質の除染活動を行う際のポイントをまとめたものです。

除染の方針及び概要

市内の除染は、「田村市放射性物質除染実施計画」に基づき、田村市が主体となって全力で取り組みます。

「幼稚園・学校関係施設」、「公共施設」、「道路」等は原則として、市が国や県と連携し直接除染を行います。一方、市内の除染対象面積は広大であり、行政だけですべてを行うには相当の期間を要すると考えられることから、除染を早期に進め、より安心して住めるようにするために、「住宅・宅地」、「身近な周辺環境」、「商業施設・工場」については、市民や所有者に協力をお願いし、市と協働して進めていくことが重要ですので、ご協力をよろしくお願いします。

○行政区等で除染活動をする場合の市の支援

① 国・県・関係機関・市民と連携して放射線量の測定を行います。また市民に放射線測定器を貸与できる体制を整備します。
② 行政区単位ごとに除染を実施する場合、専門家の派遣や資器材の貸し出しを行います。
③ 民間宅地において、屋根や雨どいなど高所等の理由で作業が困難かつ危険な場合、もしくは高齢等のため自らの作業実施が困難な場合は、市が実施します。
④ 除染の相談窓口を設け、要望に応じて除染講習会を開催します。

○除染作業の評価

市が除染作業を行う場合、除染作業の前後に空間線量や土壌濃度測定を行い、これらを比較し除染作業の効果を確認します。また、結果は公表します。

○除去土壌等の処理

除染に伴って発生した土壌等は国が確保する中間貯蔵施設が決まるまでの間、仮置きすることとなります。

仮置場の設置は、住環境に影響が及ばない国有林中に設置することを国と協議しておりますが、場所の選定や市民の了解、設置工事等、時間がかかるため、当面は市が市民のご理解・ご協力を得ながら、一時仮置き場を設置するようすすめてまいります。

除染の実施

■　線量の把握

サーベイメータの操作方法･注意点

①説明書の確認

サーベイメータを準備したら、取扱説明書をよく読みます。

②汚染の防止

サーベイメータ本体に放射性物質が付着しないようにビニール袋に入れる。また測定の際には土砂等に直接触れないようにします。

③記録をとる

測定した位置や高さ、日時などが後でわかるように、地図や記録用紙に記入します。

測定場所

○最初に道路や玄関前等で測定します。

○土砂や落ち葉が堆積した排水溝や側溝、雨どい、雨どいの下、苔、道路の脇など土砂が堆積している場所に放射性物質がたまりやすいので、測定します。

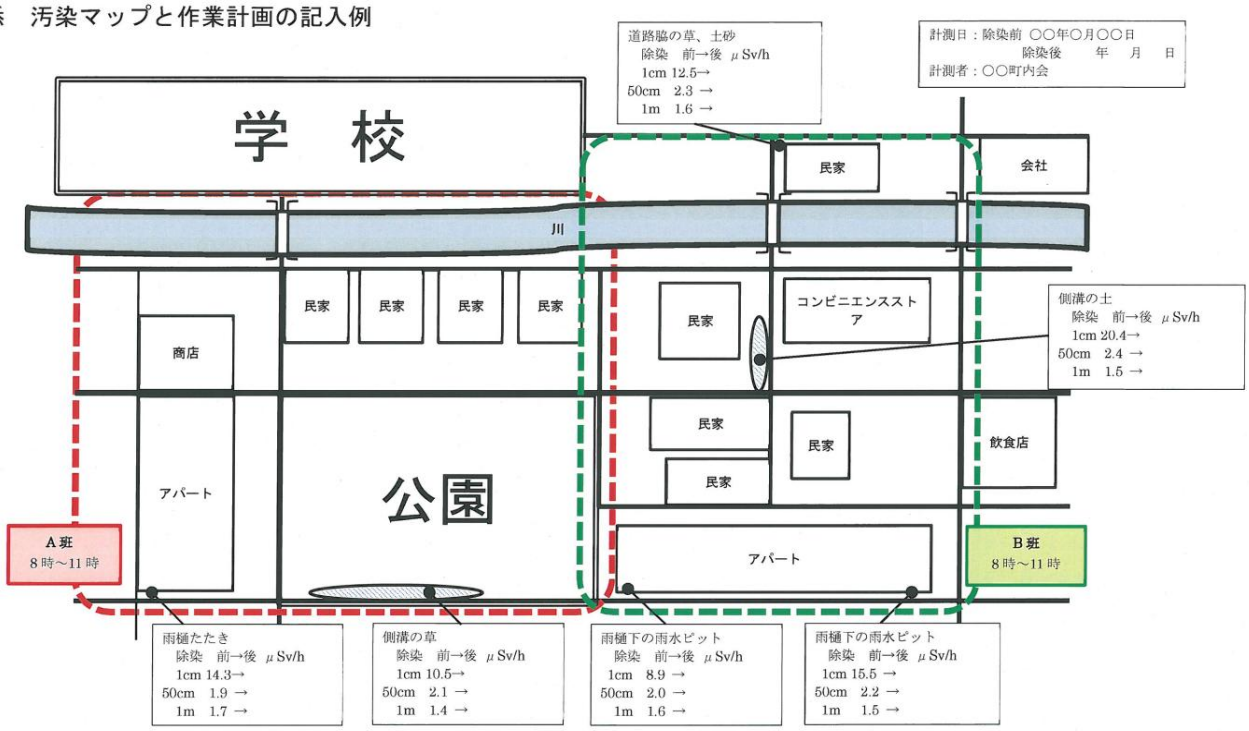
○そのほか除染作業を行う場所で測定を行います。

□測定方法

○　測定する高さをあらかじめ決めておきます（地上 1cm、50cm、1ｍなど）。
○　測定する位置で、サーベイメータを動かさず、数回測定後平均値を記録します（１カ所あたりの測定回数を統一します）。
※　サーベイメータを直接地面等に置かないでください。

■作業計画の作成

別添　汚染マップと作業計画の記入例



・手書きや既存の地図等に計測した場所とデータを書き込む。
・下記を目安におおよその除染作業時間を設定する。なお、作業範囲が広い等の場合、無理なく除染作業を行うため複数の範囲に分けて計画する。
(参考)実証実験での除染時間（おおよそ）ポイント１箇所あたり 20 分程度、通学路 100m あたり 30 分程度。
※草・土砂などの量や場所の状況によって大きく変動するので、測定の際に併せて下見をしておくことが望ましい。
・作業者の体力や気象条件等を考慮して、日中の作業を避ける（夏場のみ）、こまめに休憩をとること等を前提とすること。

■除染の準備

以下の装備を参考にして、作業内容や天候等の状況により判断します。

通常の場合、防護服等の重装備は必要ありません。土ぼこりが立つところでは水をまいたり、心配であればマスクをする等状況により判断します。

基本装備

□動きやすく通気性のよい服装（長袖、長ズボン）
□長靴
□布手袋（軍手等）
□ゴム手袋
（作業環境により、服の上に腕カバーや足カバーを着用するとよい）
□帽子
□マスク
□タオル（首周りからの侵入を防ぐ）

水を扱う作業（高圧洗浄機やブラシ等での洗浄）

□カッパ
（高圧洗浄作業は必ず上下を着用。
それ以外でも水を扱う作業では上下着用が望ましい。）
□ゴーグル（メガネ）
※汗をかきやすいのでこまめな休憩や水分の補給が必要です。

高所での作業

□ヘルメット
□安全帯
□脚立、はしご等

■除染の具体的な方法

清　掃

ゴミや刈草、落ち葉、土砂等をできるだけ除去します。

ゴミ等を集める時は、外側から内側へ丁寧に行い周りに散らさないように作業を行います。

排水溝、側溝やコンクリートの割れ目などのゴミは丁寧に取り除きます。

水洗浄

洗浄水が流れる経路を事前に確認します。

ゴミ等を取り除き掃除した後に、汚染の広がりを抑えるため、上流側からデッキブラシ（ワイヤー製）や洗浄用タワシ、高圧洗浄機を用いて洗浄を行います。

周りに飛び散らないよう、排水溝に向かって周りから集めて行くように水で洗います。

拭き掃除

遊具など子供が手を触れることがある場合適宜行います。
※紙ウエス等で拭き取る場合、一度拭いた面で再度拭くと汚染を広めることになりますので、一度拭いた面は折り返し、キレイな面で拭き取り作業を行っていくこと。

側溝内、集水枡の土砂上げ

グレーチング（側溝のフタ）を上げ側溝内の土砂を袋に詰めます。
コンクリート蓋は放射線を遮蔽しますので、大量の土砂により水が流れない場合等を除き、蓋を上げる必要はありません。

運　搬

袋詰めされたゴミ・土砂等をあらかじめ計画した仮置き場等へ運びます。
直接手に触れないように手袋をつけて作業を行います。
できるだけ衣服等に汚れがつかないように留意します。
運搬途中に水の垂れ落ち等を限りなく少なくします。

除染効果の確認

事前に測定した地点における線量測定を行い、記録するとともに除去効果の確認をします。
※周辺の空間が狭く、除染後に近くの壁面や樹木等の影響を受けやすい場所に於いては、線量が「１cm＜50cm＜１m」となる場合もありますので、記録する際に備考等で状況を記録してください。

作業終了時の措置

靴の泥はできるだけ落とします。

作業に使用した服や手袋等、作業でついた汚れが残っているところは入念に洗浄を行います。

衣類の洗濯は普通の方法で結構です。

作業に使用したマスクやゴム手袋は下記のように取り外します。

うがいやシャワー・風呂等で汚れを流します。

除染で発生した廃棄物の保管方法

■一時保管の方法

敷地境界から十分な距離を確保したうえで、次の方法によることとします。

線量の高いものはできるだけ中心部となるように置き、土を30cm程度かぶせ、遮水シートなどによる養生を行います。

人が立ち入らないよう、囲い等を設け、表示をします。

定期的に線量を測定し、記録します。

田　村　市　災　害　対　策　本　部

【お問い合わせ】市民部生活環境課原子力災害対策係

電話:0247－82－1116